

2009年11月20日

ロシア関連メモ 021

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野

メドベージェフ政権の優先課題(5):国営企業民営化プログラム

1. 「2010年－2012年国営企業民営化プログラム」

現在ロシア政府は国営企業の民営化を進めるため「2010年－2012年国営企業民営化プログラム」を策定中である。

世界経済危機以降いわゆる「プーチンのリスト」295社に代表されるロシア企業が政府に救済を求め、政府出資や役員派遣等による経済の国家支配というべき状況が進み、ロシアの大企業全体に占める政府持分は50%に達するとも言われている。

しかし危機対策のための支出増大と原油価格下落による歳入の落ち込みから、ロシアは今年10年ぶりに財政赤字に転落し、赤字幅はGDPの8%程度に達すると見られている。

そのためロシア政府は国営企業の民営化による収入を充当することにより2011年以降も予想される財政赤字を抑えることを狙っている。現段階で民営化プランの全体像は明らかにされていないが、民営化の対象は約5,500の国営企業全体で、造船・海運会社Sovcomflotや保険会社Rosgosstrakhなどの巨大国営コングロマリットも対象となる。民営化手続きの第1陣は2010年から開始される。

プーチン首相は10月6日の関係閣僚会議において「危機以降、経済指標の回復が見られる今こそ国家の“超過資産”の見直しを図る時だ。」とし、「国営企業民営化こそが実体経済改革、競争環境の整備、投資誘致のための重要な手段の1つである。」とその意義を強調した。

また同時に個々の企業の民営化に際しては市場価格による売却を基本とし、「企業の利益、追加的投資の可能性、さらに戦略的セクターの場合は国家安全保障上の基準を勘案して決定する」との基本方針を明らかにした。

ロシア政府は民営化に際し海外からの投資を促進する方針で、プーチン首相は11月10日に開催された「海外投資諮問評議会 (Foreign Investment Advisory Council)」¹において、ロシアでは

¹・海外投資諮問評議会は1994年にロシア政府と海外の投資家の協力促進の目的で設置された。議長は首相。参加メンバーはロシアで活動する多国籍企業及び世銀、EBRD等。

「行政上の意思決定に官僚主義と計画経済の遺産が蔓延」しており、海外からの投資が困難な状態にあることを認め、許認可期間短縮及び要許認可適用範囲の縮減等の措置を進めることを明言した。

ナビウリナ経済発展大臣も同評議会において「国営企業民営化手続きは海外からの投資に対してオープンであることを強調したい。」と述べ、特にハイテク、イノベーション領域等のセクターについては特別の投資促進手続きを設定する方針を明らかにした。

なお、この国営企業民営化による財政収入については「70 億ルーブル」という額が政府から示されている模様だが、これについて現代発展研究所のユルゲンス所長は「官僚による無責任な見積もり」と批判し、「それよりも遥かに多額の民営化収入を確保して 2010 年予算の基盤を作らなくてはならない。」と民営化の促進と適正価格による執行を主張している²。

2. 国策企業の近代化

国営企業民営化と類似の文脈で議論されているのがフグプ（ФГУПами - федеральными государственными унитарными предприятиями）と呼ばれる国策会社のあり方の見直しである。

フグプは 2007 年以降設立されたロシア特有の政府管理下の企業形態で、政府資産を無償で受け取り国家予算から資金を得て産業育成を行う使命を持つ。

現在、ロスアトム、ロステクノロジーズ、ルスナノ、対外経済銀行、オリンピストロイ、抵当金融機関、住宅設備改造基金の 7 社ある。フグプはもともと官僚利権の温床とも言われており、今年 8 月メドベージェフ大統領は最高検察庁に対しフグプ経営実態調査を命じた。

これに対し最高検察庁は 11 月 10 日にロステクノロジーズにおける 22 件の犯罪行為やロスナノにおける不透明な資金実体について報告を行った。ロスナノは過去 2 年間に国家から 1,300 億ルーブルのナノプロジェクト用資金を受領したが、実際に使われたのは 100 億ルーブルに過ぎず、そのうち 50 億ルーブルも経常的な運転資金に充当されたとのことである。

メドベージェフ大統領は 11 月 12 日の大統領教書演説においても「フグプに未来は無い。政府管理下の株式会社に改組し存在価値があれば存続させるが、そうでなければ売却」との方針を打ち出した。

以上

² Игорь Юргенс: Слабость силы—Если Россия не начнет модернизацию сегодня, то завтра рискует стать страной третьего мира (イゴリ・ユルゲンス：力の弱さ—もし今日ロシアが近代化に失敗すれば第三世界の国になるリスクがある)